



この排水ポンプ車には4台の可搬式ポンプを装備しています。
1秒間にドラム缶約2.5本（約30m³/分）の排水が可能。小学校のプールを10分ほどで空にすることができます。

国土交通省木曾川上流河川事務所
揖斐川第二出張所



『排水ポンプ車、体験通じ機能実感！』

～ 輪之内町で住民参加型の防災訓練開催される ～

勢いよく吐き出される水を見学する住民たち

防災の日（9月1日）を目前に控えた31日（日）、輪之内町防災訓練が行われ、町民ら約200人が、初期消火や倒壊家屋からの被災者救出・救護など18項目の訓練に取り組み、防災意識を高めました。

訓練は、巨大地震と大雨による内水被害が発生したという想定で実施。総勢約2,200人が避難訓練を行ったほか、メイン会場の大藪小学校では、土のうを拵えたり、排水ポンプ車の排水操作体験など水防訓練も行った。同校プールでは、国土交通省木曾川上流河川事務所の職員が立ち会う中、住民らは真剣な表情で、排水ポンプ車に搭載された排水ホースを取り付けたり、可搬式ポンプを水中に設置する体験を行った。排水ホースから吐き出される大量の水を見た各自治会区長や住民たちは一様に「あの小さなポンプからこんなにたくさんの水が出せるのか、すごい！」と驚きと感嘆の声を上げていました。



訓練の様子（写真左から、ポンプの取付訓練、排水ホースの設置訓練、ポンプ車の説明を聞く住民たち）

訓練では災害対策本部が設置され、本部長である輪之内町長の指揮の下で町内の被災情報を集約し、各班への指示を出すとともに必要に応じて関係機関への救援要請を行いました。木曾川上流河川事務所では、輪之内町からのリエゾン要請に応じて要員2名を派遣して対策本部に加わり、国・自治体との連携した本番さながらの訓練も行いました。

※「リエゾン」とは、甚大な災害の発生もしくは発生が予想される自治体からの要請に応じて国土交通省より派遣される現地情報連絡員のこと。



リエゾン派遣で、災害対策本部に加わった国職員の訓練の様子



排水ポンプ車操作訓練会場に設置したパネル
(排水ポンプ車の説明や東日本大震災時における排水ポンプ車の活動実績、木曾三川治水の歴史を伝えている)



全ての訓練項目を終え、講評する輪之内町長